

博物館実習を終えて

平成8年度博物館実習生

学芸員資格の取得をめざす学生の皆さんが、9大学から18名、博物館にやってきました。皆さんには9月12日から10月13日までの間、動物(A、B)、植物、古生物、地球環境の各グループで、8日間、実習していただきました。普段あまり見ることでできない学芸員の仕事や博物館の裏側を見ていただき、貴重な体験になったと思います。博物館のスタッフも実習生から多くの刺激を受けたようです。全員の文章を紹介できないのが残念ですが、実習生の感想を紹介します。

小山 正仁

この博物館で学芸員実習生として過ごした合計8日間は、毎日が、驚きの連続でした。感心の連続でした。そして、新鮮でした。これを書いている今でも、そのときのことを、思うかべます。班に分かれて一生懸命考えて発表したディスカッションの時、一生懸命考えたけれども、結局いい考えが思い付かず、難しさを思い知った展示企画の課題、一般の人々と触れ合うことも大切だと教えてくれた野外観察会、貴重な資料を取り扱ったり、いろんなことを経験した特別展の後かたづけなど思い出します。そして何よりも、親切に、丁寧に、親しく、我々に接してくれたこの博物館の人達を忘れることは、できません。本当に、ありがとうございました。(日本大学農獣医学部・動物Aグループ)

多田 昌弘

私にとって今回の実習は、やること全てが初めての体験でした。大学では日本史を専攻している私が、どうい

わけか全くの専門外の地球環境グループに転がり込んでしまいました。岩石の粉碎・カットから萩原コレクションの整理まで、私の一生でもう二度と得ることのないであろう貴重な人生経験をさせていただいたことに感謝しています。また、実習期間中それ以上に、博物館の職員の方々の様々な人柄に触れられたことで、今回の実習は大いに実りのあるものとなりました。(東海大学文学部・地球環境グループ)

槻 菜穂子

博物館実習生として一週間ほどお世話になり、主に植物標本の作成や資料の整理をさせていただきました。それらの作業をすることにより、資料整理や調査研究などの外から見えない部分があってそれが展示や学習支援活動に生かされていることが分かりました。ただ、そういった部分や中で働いている学芸員の方々の存在は外から見るだけでは分かりにくいので、もう少しそれらを表面に出してもいいのではないかと思います。また、利用する側も、もっといろいろな形で博物館を利用するようにすると、今までよりも楽しめると思います。(横浜国立大学教育学部・植物グループ)

田村 太郎

館内、そこは別天地。巨大な洞窟かタイムトンネルに迷い込んでしまったかのようだ。そして行く先々で出会う迫力ある展示物たち。今にも動きそうな勢いで、じっとこちらを見つめている。そこには従来の博物館のような堅苦しいイメージはない。分類にこだわ

らず、一見無造作に並べられている展示物からは、見て触れて楽しむという博物館の意図を強く感じる。

分類展示・学問展示といった堅苦しく枠を作りたがる日本で、展示物を見て触って楽しむという、学問から一歩離れたこと

は画期的だ。だが、これは博物館が根本に持つ要素。にもかかわらず新鮮に思えてしまうのはある意味で悲しい。

これからは、自分と物あるいは物同士比較しながら楽しめ、展示物に親近感のわく博物館が次々に出て来て欲しい。そのさきがけである当館のスタッフに接触できたことは、自分にとって貴重な財産となるだろう。(日本大学文理学部・古生物グループ)

井上 恵美

地学系の知識がほとんどなくて、最初は不安でしたが、実習はとても楽しく、勉強になりました。中でも収蔵庫の鉱物の整理は、鉱物を実際に扱うことができて、一番楽しかったです。

実習生の立場でありながら、実習の合間に展示室の方を見て来館者が多いと、なんだかとてもうれしく感じました。8日間だけでしたが、実際に博物館で働くことができ、博物館実習にきて本当によかったと思いました。

実習をして、この博物館は活気があっていいなと思うと同時に、研究と普及の両方に関ることができる学芸員という仕事に、非常に魅力を感じました。(東京都立大学大学院理学研究科・地球環境グループ)

鈴木 秀明

今回の博物館実習は、教育学部に在籍しながら今まで教育というものについて考えたことのなかった私にとって、改めて教育とは、学習とは何かを考える良い機会となりました。なかでも、社会教育施設としての博物館がこれからの時代どうあるべきなのかということについて、第一線で働いている方々のお話を聞くことができたのは実に得難い体験でした。また、実習最終日に研究テクニック講座の手伝いをさせていただいたのですが、そのときに参加された方々や来て下さったボランティアの方々の間に横のつながりができているのを知り、地域の社会教育活動の中核としての博物館の果たす働きを強く印象づけられました。短い期間でしたが、様々なことを学ぶ事ができた、有意義な8日間でした。(横浜国立大学教育学部・動物Bグループ)



植物に関する文献の整理。整理後、台帳を作成する。植物グループ。



液浸標本の作成。魚を同定し、ホルマリンで固定した後、写真撮影をする。撮影後は収蔵庫へ。動物Bグループ